

東京之末續及七電信

清成

3476



東京へ出信

大藏省

大藏省

414
A2187



明治

七年七月廿六日

於大坂造幣寮

大正十一年四月贈

郵便托 日曜

御分袂以来御起居愈御清迪并賀此事
御坐候拙生其他無恙昨廿五日着坂造幣
寮滞在罷在候

一造幣寮之儀未々着手ノ暇無之追々其摸
様可及御報知候得共先無事ト見込罷在
候

一遠藤権頭ニ於テモ拙生着テ待テ直ニ辞ス
ルコトニ計リ候次第故兼テ發程前御

第一號

相談由上置候通り御運々相成候様致し
度現今談察之事務ニ於テハ何ノ異事モ
無之趣遠藤長谷川ヨリ承知致し候
一遠藤ヨリ承リ候ニキンドルニ於テ先般
數度往復以來何欵不滿之様子モ有之様
相見へ候由云々右ハ實ニ左モ可有之於方
生モ被察候下併不日面晤何モ令氷解和
談ヲ遂ケ其目途ヲ達シ候様精々注意
罷在候事故御擲慮有之度若又將来自
他共此察務ニ関スル事ノ心得置クヘキモノ

アラバ凡ソ細大トナク其都度々御報知有之度右
ハ當方談判之模様ニモ大ニ関シ候儀故今更
下贅言厚御依頼致シ猶此後之様子追
々可申進候得共不取敢着坂之御報告旁
得御意度如斯ニ候也

吉田少輔
大隈卿殿

明治七年七月廿八日

於大坂造幣寮

郵便托

酷暑之候益御珍迪御鞅掌折賀之至リニ存
候今便第二公信差立申候書中御熟閱
願、御報答相待申候

一本月二十一日付閣下へ「キンドル」ヨリ第八百八十
四号ヲ以テ上呈ノ書中同人ニ於テハ昨年御
發行貨幣ノ御布告文ヲ寫シ所持函之云
、因テ英文新聞紙へ掲載相成候公告文寫
至急御面シ相成度段申出候筈ニ有之候也

可有之候也

吉田大藏少輔

郷大藏大丞殿

別紙

遠藤大丞一達書寫

造幣權頭石丸安世著坂之上事務引継
候迄、察務是迄之通り取扱九四等出仕
長谷川方省可被申合此段相違候事

明治七年八月一日 大藏少輔吉田清成

大藏大丞遠藤証助殿

長谷川方省一達書寫

別紙之通り遠藤大丞一相違候間石丸權頭
著取迄察務是迄之通り遠藤大丞申合可被
取扱此段相違候也

明治七年八月一日 大藏少輔吉田清成
造幣寮四等出仕長谷川方省殿

明治七年八月一日 於大坂造幣寮認

八月二日 郵便托

本日午後差立候電報之趣ハ夫々御承知之儀
ト存候劣生著坂後既ニ六日ヲ閱シ候得共未タ
キンド止面會ヲ不遂同人ニ於テハ今般劣生之出
張ハ必御備外國人ニ悉ク放免之積ニモ可有之
過憲罷在候忒ニテ事ヲ左右ニ托シ免角不平
ヲ鳴シ就中當昏中數度書面往復之末竟ニ
四月廿五日付閣下之代理名義ヲ以劣生ヨリ贈
リ候書翰中儂々對シ輕蔑之意有之候ハテ今

ハ御承知之如ク往時一回銀鑄造ニ付各國
公使及臣民へ公告之儀外務省之手ヲ經夫
レ蒙分既濟其節右之儀横文ヲ以テ新聞
紙上へ掲載致シ候事ニ有之候右新聞紙早
レ御差面ニ有之候様致シ度ト申儀ニ有之
右ハ國債寮中造幣寮御用掛リ之者へ至
急御下命相成其節之新聞御面ニ相成度
若シ萬一急速不見當ボノ儀モ候ハ、外務省
及各公使へ通知候公告文ヲ其終謄寫御付與
相成候様致シ度事ニ有之候

一右同日同断書中再伸ニ上申致シ候儀
二件其初条ニ於テハ劣生ニ於テモ至極尤之儀ト
被考候新貿易銀之方ハ右申立候通り御決
定有之度儀ニ有之候其末條品位公差之儀
是又尤之儀ニ有之其段公告相成候様有之度
候

一新銀量目公差其外共調方本省ニ於テスレハ是
非一應ハ當寮へ御下向之都合ニ無之テハ不相成
左スレバ往復多少之日數ヲ費シ候儀旁右ハ直
チニ當方ニテ取調方致シ差進可申候間右ヲ以

般之行猶親シテ面晤ヲ好マズトノ事ノ由是レ其
未タ相見ニ至ラザルノ一ニ有之候且又旧寮頭及出仕ノ
面ニモ先ツ其終打過候方却テ公務上之都合モ
一段可然トノ論議モ有之故旁以今日ニ至ルマ
デモ從是強テ面會ヲ不促罷仕候然ルニ去月
二十二日行閣下ヨリキンドル一被遣候公書
方主出立ノ節
持手ノ書アリ對シ御回答同人ヨリ上呈致シ
候由本日右寫ヲ得則致披閱候處其文中
或ハ瑣々タル言語上ノ枝葉ヲ揚ケ狂テ辭
柄ヲ作り當三月十一日以來永數次同人ヨリ之書

翰中自カラ永メテ紛然ヲ永メシ候其根原ナ
ル過誤失言ボハ一向及永省察之念毫モ無
之而已ナラズ飽マテ傲慢無禮之私論ヲ主張
シ其暴權ヲ振ハントノ心術ト見受ケ申候就テ
ハ高慮如何可有之哉臆度ヲ以遙ニ推察難
相成候得共此度之儀ニ付テハ既ニ發程前
鄙見ニ於テ自然出張先キ或ハ此極ニ至ラン欲
ト品々預メ御内談致シ加之鄙議ヲ呈シ之レニ
御鈴印ヲモ乞ヒ候程ノ儀故聊御嫌疑無之
今般キンドル一ノ却答書ニハ断然手強ク御答

更ニ御熟議御指令相成候方一層便利ニ可有之左様御承知有之度候

一新銀貿易銀、三字何分裏面之文字ニ適セ

ス且大日本字位置不得宜其上一体之模様モ甚

以不佳先不取敢見本差進候儀ニ候得共永

ク海外へ流通之至寶ニモ有之殊ニ目今急

功ヲ貪リ候儀ニモ魚之旁熊谷へ御談シ本省

御傭水村凝之へ御下命、上今般上呈之見

本ヲ以紙上ニ假ニ其徑リヲ伸へ文字之大小

當人之適宜得意之處ニテ格ニ合候様字畫ハ楷正可然試

ニ一ニ体為認其善キモノヲ撰ブ或ハ
一ニ体ノ異ナルアルモノ可ナランカ 認入レ方大小伸縮ハ寫真ヲ以テ
スルモノ故自由ニ寫シ能

リテ相整候様致シ度存候右番及文字ニ儀ニ付

テハ察議モ殊ノ外不且年号中治ノ字七年ノ字

ニ種ノ評論モ有之貿易銀ノ字ニ至リテハ殊更

悪評之事ニ有之於劣主モ同様見受申候察中

為認入候モノモ可有之候へ氏今右之通り致シ

候得ハ瑣々タル事ヨリ彼是紛々物議ヲ来タシ

煩ヲ永メ候疑念モ有之是非共凝之へ被命候

方可然被存候談察之見込モ同様之事ニ有

之候

一相成可相成ハ同人ヨリ上呈ノ一書ハ當今御
差戻之有之候様致シ度凡右様ノ英断ヲ以
御處置不相成候テハ劣生違ニ出張彼是焦
思候程之註可有之トハ認トメ不申候依テ今
更ニ此情况ヲ具シ候上ハ弥商下之御果断
ヲ以テ先般以来彼此紛紜葛藤相生シ候儀
ヨリ現今新旧察頭引継之事務及其他察
務ニ関スル儀ハ細大トナク劣生十分之御委
任不相成候テハ迎モ臨機ノ良策施行毎覺
束ト見之罷在候此行素ヨリ右邊始末完全

ナラシメ旧系之弊ヲ一洗シ将来ヲ平易ナラシ
ムル為ニ候得共下不及不悖 朝意自今該察
ヲシテ真ノ大日本政府ノ造幣察トシ名実
兩全相成候様改革ノ目途ヲ達シ候心組ニ有
之候間仰願クハ鄙見御採用中廢之弊無
之様幾重ニモ應接有之度切ニ企望ノ所有
之候

一該察御傭外國人之内才ニセハハ首長ニ及シ
居候輩ニテ既ニ察中ノ見込ニモ今般「ギンドル
ヲ御傭相成候様ニ候得ハ是迄我ガ双肩ト

一新貿易銀之儀ハ全ク墨銀同一令通用候見込
故敢テ比較ヲ旧銀四ニ不取全ク孤立ノモノニテ支
出ガ控ラ場所及時相場ヲ以彼我共ニ取引致
シ候方萬全之儀ト存候是迄ノ制ニテハ終始金
銀兩本位ト相成候弊有之其不利甲迄モ無
之儀ト存候間萬ト御熟考速ニ御決定相
成候様致シ度切ニ企望罷在候
右之件、得御意候以上

吉田少輔

大隈卿殿

追テ昨日電信ヲ以往復イタシ候ト通遠藤之
辞令ハ至急御回シ有之度當人モ日ノ屈指
相待居候事ニ候石丸モ可成丈速ニ赴任相
成候様イタシ度種々都合モ有之候儀旁
更ニ申進候
一當察ノ事務モ著後日猶淺ク亦夕是ト申
儀モ亟之追テ著手之端ニ就キ候心得專
ラ考按ヲ鍊リ罷在候猶其内追テ様子可
申進候也

頼三居候老鍊熟達之外人三口名ハ父ハ先
ツ離散可致トノ説ニ有之且又他ヨリ傳来候
ニ衆人ノ意若シキンドル御雇継ニモ相成候様
ニテハ迎モ從事ハ不相成ガ云し其他承上候
儀モ不尠萬口一談彼レノ悪ヲ揚ケ候勢不
堪聞痛心此事ニ有之候想ニ彼レニ從フノ徒
ハ同人之親族ニ連ナルモノカ將タ常々已レノ腦ハ
他ヲシテ守ラシムル如キノ徒カ此二者ノ外カナラズ
孰レモ不要用ノ人物ト申ス事ニテ如何ニトモスヘ
カラガルモノ一有之殊ニ旧緊頭及次官ニ於テハ到

底此期ヲ幸ヒトシテ放逐之方最可然トノ見込ニ有
之候右様證トスルニ足ルモノ多ク有之次第ニ付
吳ノモ去ル四月廿五日付鄙職ヨリキンドルヘ遣
候書簡取消杯ニ涉リ候儀モ有之候様ニテハ
本省ノ権理モ全ク地ニ墜キ将来不可救ノ患
害ヲ来シ候ハ必然ト存候間萬ト御懇慮有之
度事ニ候下併當三月十一日初其以來キンドル
ヨリ出ス所ノ文書ハ相共ニ悉皆取消ト申儀
ニモ候得ハ亦敢テ異議ナキ事ニモ可有之被
考候実ニ是ガ之件ハ懇慮上之最モ懇慮

明治七年八月一日 於大坂造幣寮

郵便托

今般遠藤權頭轉任ニ付石丸權頭着坂寮務
 引継候迄之處遠藤大丞ニ於テ從前之如ク事
 務取扱候様別紙寫之通り相達申候石丸目下
 支障之儀モ不勘旁不可缺之急務ニ付少シ
 權理外之儀ニ涉リ候ヘ尺出張先キ之儀断然
 自拙者相達ニ申候儀ニ有之併右之段ハ一應
 正院へ上申致シ置候方可然ト被存候因テ
 夫レ達書寫相添此段申進候可然御取斗

大坂造幣寮

モノト被存候

右之件、御承知相成候上、詳細之儀ハ書
面ヲ以御報知有之候共先ツ其御答大意、即
時電報ニテ御通信有之度此儀モ右様之儀
ニ付テハ同様御報知有之候様致シ度此段預
メ所陳致シ置候也

吉田少輔

大隈卿殿

追テ将来諒察維持方法之儀ニ付テハ日察
頭初一ノ意見モ有之是レ方生ノ見込トハ大

ニ及シ居候併シ是ハ目撃又ハ想像ヨリ起ルモ
ノニ無之多年親炙觀ル所アルモノ歎亦々壅
蔽スベカラゲル儀ニ付免角口上ヲ以テセシ儀ハ他日
ノ確證トモ不相成儀故宿論モ有之儀ニ候
ハ、此際無伏藏所陳連署之書面ヲ以可申出
其上猶熟慮可致旨相達置申候右書
面差出シ候上ハ方生ヨリ申上候儀モ可有
之候此段大畧申陳候
又云本日差出候電信寫為念差違候也

電信寫畧

九藏卷

明治七年八月六日 於泉布觀

郵便托

本月一日付同二日發之第四公信ヲ以テキニトシテ
 情況及右ニ付立ル之鄙見共委細申進置候
 儀故早ク已ニ御落手萬端御承知之儀ト存
 候爾後同人依旧暴論ヲ主張シ既ニ旧權頭
 ヲリ別紙**甲**号之通り一書ヲ贈リ候由即テ譯
 文差進候間御一閱有之度右之文意ニテ當
 人情實如何ハ御推察有之度候其後同人ヨ
 リ新竹石丸權頭ニテ送リ候返書**子**号ノ通

五号

リニ有之候是又眞^ニ進候間御披閱有之度
是以至當穩妥ヲ得候迄言^ハ有之間敷被考
候

一先信(第^四信)申進置候旧察頭其他ヨリノ意見
別紙麟鳳龜龍号之通り方生迄差出申候
即夫々寫ヲ以供御一覽候右ハ於方生日取至
當之儀ト存候着取後段^ニ及探偵且ツ實地
親シク目撃之處大ニ知ル所モ有之旁到底
發程前及御協議決ヲ預シメセシ如クニハ難被
行勢ニ有之候是他ナラズ閣下ニモ御熟知通

元来^キ儀粗暴之性質加フルニ近來追々
恃之故歛一層之傲慢ヲ增長シ故ヲ以他雇外
國人モ誰^モアリテ服スルモノナク各自相議シ彼レ
若シ在ラハ辞シ去ラシテ唱フルモノ而已有之
有之今正ニ其證ヲ得申候尤其仔細^ノ如キハ
過日粗及御通知置候儀ニ候ハ氏猶追々其
黨ノ増殖スルヲ見ル日更ニ詳細可申進候
因テ前ニモ開陳セシ如ク其情況如此ニ有之
衆人ノ目スル所ト云ヒ又鄙^ニ於テモ實際聞
見ノ處ニテハ當^レ切^ク方按^トモ少シク異ナリ處

心ヲ以テ見ルニ免^レ衆議ニ因^リ事^ニ可
然ト考候間今般此地ニ於^テ何事モ断^リ決セ
ス悉ク胸裏ニ收メ其當ヲ得テ將來萬全ノ
目途ヲ立ツルノ意匠ヲ鍊^リ逐一歸京之上詳
悉仰高慮其上速ニ着手整頓可致存候
乍併兼テ申進置候通^リ此儀ニ付テハ嘗テ
鄙職ニ御付與ノ權利ハ益厚ク御委任被成
置度其責任ハ方生一身ニ歸スル者ト御承
知有之度企望候所ニ有之候
一本月一日付ヲ以^テギンドルヨ^リ閣下ニ送^リ呈^ス

答書中第二節ニ去ル四月二十五日付鄙職ヨリ
ギンドルニ送^リシ書中(御代理ヲ以^テ送^ルモノ)論議ヲ醸成スベキ
文アリ従^ヒ是^レ以來願^ハザル不快ノ往復ヲ始メタリ
ト云^ハ是^レ全ク遁^ケ辞^ヲ狂^ケテ物ヲ作^ルモノニテ溯^リ
ボリテ葛藤ノ監觴ヲ釋スル其以前三月十一日
付同人ヨリ送^ル所激文ヨリ承^ルモノニ有^レ之候畢
竟此激文ヲ以^テスルヨリ我^レヨリハ承^メテ之^レニ抗
セ^ズ段々之^レガ辨解ヲ費^マシ務^メテ理會ヲ要
シ候迄ノ儀ニテ敢^テ他^ノ事^ヲ非^ス既^ニ昨日モ電
報ヲ以^テ御通信致^シ候通^リ東洋銀行神戸

支店「コロンビー」來訪頻ニ和ヲ求メ到底劣生ヨ
リ「キンドル」ニ對シ是マデ經テ儀取テ意アル
ニ非ス宜シク諒察セヨ一言以テ彼レノ心ヲ氷
解セシムルニ足ルボノ説モ有之候ニ付劣生ヨリ
薦テ是マデノ形状及事態歴々枚挙申聞
候處一々其理ニ服シ一言之ヲ否トスルモノナク
只管「ロバートソン」不行届ノ邊ヨリ此煩ヲ惹キ
出シ候儀ヤ物語リ致シ從是ハ理ノ存スル所
ヲ尽シ徳當ノ言辞以テ手強ク申放シ置候
就中四月二十五日書翰文ヤ之儀ハ彼レガ主

張スルノ大眼目ニ有之候得共右ハ當時卿之
代理ヲ以取斗爾後右之儀ニ付卿ヨリ數回相
進シ候趣モ有之今劣生一己ノ見ヲ以可否
候儀ハ決シテ不相成是全ク權利外之儀際
然ニ有之一体我レニ於テハ我政府ノ為メハ勿論該
察ノ妨碍ナク日ニ工業ヲ進メ彼此諸事好都合
合ヲ欲シ候儀大目的ニテ右様字句上オニ就キ
圭角ヲオムルノ意ニ趣之一知ヲ主トスル儀ニ候
間素ヨリ和ハ我輩ノ常ニ望ム所ニ候得ハ宜
シク此意ヲ體シ右様風波ノ模様モ候ハ是下

輩ノ謀々シテ自他令_目胆ヲ周旋スベキ當然ニ可
有之段懇々説諭差返_レ候實ニ_レキンドル
之申分勝手ニ過キ候儀ニテ是外人ノ常トハ
下申最甚敷モノニ有之候宜御諒察諸事
御注意若シ御答式被遣候節ハ可成丈手
強ク御申放シ有之度は仰ク所ニ御座候
右之件ハ專御意候也

吉田少輔

大隈卿殿

追テ別紙丈ハ御落手御披覧有之度爾

来一昨及昨兩回ノ電報御通信何ツレモ正
ニ落手丈ハ領承致シ候事ニ有之候
且昨日從是差進候電信眞為念差進候
也

電報畧

甲子号ハキンドル往復書中ニ就テ見ルベシ

明治七年八月八日

於神戸旅寓

郵便托

以来未夕貴書ハ不得候得共追々電報等受取大
略承知之儀ニ有之候

去ル六日電信ヲ以御通知イタシ候通り同日午
前ヨリキンドル之接見モ無滞相濟申候別紙應
接右之通りニ有之則令信寫差進候間御熟閱御
承有之度右ハ前日五神戸東洋銀行ヨリコロン
ビレ来訪ニテ云々談話之儀モ有之此儀第五公
信中詳ナリ
旁同人ヨリキンドルレ説得敬服イタシ候ヨリ

ノ儀ト被考候先擬畧ノ之通りニ候間御放念有
之度候

一
本日ハ内務卿入港可相成ト昨日當港出張待受
ク候風波之故欵郵船着岸例時ヨリハ遅ク午前
十時頃無恙一行着被致夫ニ面會イタニ且内務
卿ハ御囑托之趣ハ一ニ領承候事ニ有之候先ツ
坂地ノ事モ大体ノ目途ハ相立テ申候未夕枝葉
ニ涉ル儀残り居候得共精ニ手操若クハ石丸権
頭到着不相成モ其都合ニ因リ可成丈早速ニ歸
京之心組ニ有之候間不様御承知有之度候

一
遠藤大丞ヨリ故國ニ老母モ有之賜暇中ノ儀且
ツ坂地ヨリハ里程モ半分ニ有之旁此際歸省訊
問致シ度旨申出居候右ハ差支モ無之併シ右九
權頭着坂寮務引續キモ有之儀故右ホテ果シ候
上可罷越ト内示イタニ置候イツレ劣生出張ヲ
幸ヒ更ニ當人ヨリ可申出ト存候其節ハ承届可
申存候

右之件ニ神戸旅寓ニオイト倉卒中認メ取差進
候也

大隈大藏卿殿

吉田少輔

明治七年八月十六日

於泉布觀

爾來石丸權頭齋至候迄公信其外逐次相達

一：點閱御書中多々ハ御答有之候間更

答不申進候

本月十四日

申候是ハ幸ニ鄙職出坂當時其期ニ有之先規

同十五日午後四時石丸權頭着坂面會該察之情

況及爾來彼我往復且當地ヨリ貴地ハ之同斷書

大藏省

方今之勢ヲモ斟酌イタシ内密出納察ニ下命ニ
現半壹萬石壹石五付平均九錢位餘買入方取斗申候
右買入米ハ兵庫北風稗名ヨリ買入ノ廩田
為取斗置非常ニ備ヘ候積尤此儀市中
未夕難レ壹人モ存知候モ人無之候
全準備
現今市中相場平均上ニテ六圓七八拾錢ニ
有之候尤大久保着後ヨリ大凡六圓五拾錢
位ニ上リ今上文ニ云フ所ノ如キ價ナリ
大槩當地御用ニ夫ノ整頓ノ目途相達シ此上六

際モ無之儀貴地之儀ニ亦ノ關心不尠旁御促ニ
趣モ有之先來ル十八日發足陸行歸東之心得
有之水陸無恙候ハ、廿五六日之頃ニハ着京
可相成被存候猶出立之際電報御通信可及候得
共御出状ハ御見合有之度此段申進置候
右之件ニ得御意候也

吉田少輔

大隈御殿

追耐飲氏ハ御答ハ彼レノ文ヲ添當地ニテ作ル自カラス

大
藏
省

大
藏
省

明治七年七月廿五日

東京

大坂

大蔵省

吉田少輔

ニジウゴニチ・ミナ、ハンニ、ツク、
ゾラヘイレウニ、トマル、ラツラ、ユラ
ビレ・ダスベシ、タクエ、タノム、

大蔵省

大蔵大丞
 吉田少輔
 大坂
 大蔵大丞
 吉田少輔
 大坂

明治七年七月廿七日

東京

大坂

大蔵大丞

吉田少輔

ニケウ、イナニケ、ツケ、キンドル、ヨリ、オクリシ、ボウ
 エキ、ギン、ノギ、ヘニジ、ミアハス、ベシ、イサイ、コンニケ
 テガミ、ダス、

明治七年七月廿七日

東京

大坂

大藏大丞中

吉田少輔

ケフノ、シン、エタ、エンドラノ、ジレイ、
スグ、ヲクレ、イシマル、イソイデ、コイ、

大藏省

大藏省

明治七年八月一日

東京

大藏大丞

大坂

吉田少輔

エントラ、ジレイ、ワタス、キントル、
エハ、ワレヨリ、イシマルノ、コトト、
トモ、ラモテムキ、タツセリ、

大藏省

大藏省

明治七年八月一日

東京

大藏大丞

大坂

吉田少輔

Faint vertical text in the right column, possibly bleed-through or very light handwriting.

明治七年八月一日

東京

大坂

大隈大蔵卿

吉田少輔

ジブシヨリ、シガリ、ニジラゴニチ、
 ツケテ、キントルエ、ヤリシ、テガミノ、
 ウチニ、ケイベツノ、コト、アル、エエ、
 ソレヲ、トリカエサヌ、ウチハ、ナニモ、
 ジダン、セヌ、トテ、イカリ、ラリ、カレ、
 イマダ、ワレヲ、トモセズ、ホカ、

大蔵卿

明治七年八月一日

東京

大坂

大蔵卿

ワカ、ツゴラモ、アルユエ、イヌダ、
カレニハ、アヌヌナリ、
ユエニ、サノ、イミテ、キヨリ、
キンドルエ、スグ、デンシン、ツウジテ、
クレ子バ、ナラヌ、コレカンヨウ、
ケウノ、ダイリナル、ヨシダ、ヨリ、
シガツ、ニジウゴニケ、ツケテ、ヲクリシ、
テガミノ、ウケニ、イロシ、アルヨシテ、

トリカエシ、ノゾムト、キユレドモ、
ソレハ、ケシテ、トリカエスコト、デキズ、
モキロ、ゾラヘレウ、ジム、ツイテハ、コノタビ、
ヨシダエ、マカセシウエ、デバリシ、コトユエ、
ヨシダト、ジキダシ、セサレバ、ナニゴトモ、
マトメ、ガタシ、ソレユヘ、シケガツ、
ニジウニケツケ、ワカ、テガミテ、イイシ、
トラリナリ、ヨク、ヨシダト、ケウキセヨ、
ミキノ、イミテ、キンドルエ、スグ、デンシン、

明治七年八月三日

東京

大藏大丞

大坂

吉田少輔

キノヲ、キヤウヨリノ、デンシン、エタ、
 イサイ、セウチ、キンドルユ、ヲクリシ、
 ゲンブシ、ウツシ、スグニ、デンシンデ、
 ワレニ、ヲクレ、

大藏省

ヲクレ

大坂
 吉田少輔
 大藏大丞
 東京
 明治七年八月三日

大藏省

七年八月四日

東京大蔵省

大坂造幣寮

熊谷大丞へ

吉田少輔

キンドルエ、デンシンノ、オモムキ、
 オ、クボノコト、イツレモシヨウケ、
 オ、クボ、イツタツカ、ヨシハラノホカ、
 ズイコウノモノ、ダレカ、ミギノコト、
 ヘンジ、ハヤタ、キ、タシ、

明治七年八月六日

大隈卿

吉田少輔

ケサ、キンドルト、アヒシ、カレ、イケンヲ、
カエ、ワニ、キス、ナニモ、ウチトケタ、
トラレウノコト、ワレニ、マカセ、アンシンセヨ、
ヲ、クボ、シツタツシタカ、

大隈

大隈

ワガ、キケウ、マデハ、ロベルトソンエハ、
イツノ、ダンパン、ナキラ、子ガウ、
サクコンノ、デンシン、ミナ、エタ、

明治七年八月五日

大隈大隈

吉田少輔

ケサ、キンドルト、アヒシ、カレ、イケンヲ、
カエ、ワニ、キス、ナニモ、ウチトケタ、
トラレウノコト、ワレニ、マカセ、アンシンセヨ、
ヲ、クボ、シツタツシタカ、

明治七年八月十日

東京

大藏大丞

大坂

吉田少輔

イシマル、イツ、タツカ、モヨウ、スグ、
ヘンジ、アレ、

明治七年八月十日

第十卷

大藏省

ハシロ、アム、
トシ、ハ、イマ、カクカ、
...

大藏省

吉田

東京

大藏

昭和六年八月十日

第十一

東京

大坂

大藏省

吉田

コシ、ジウハチニチ、タツ、リクヲ、カエル、
デキツク、

大藏省

予、夫、ハ、ク、
コ、シ、ミ、ウ、ハ、ニ、セ、ク、
...

大藏省

東京

吉田

大藏

明治七年八月廿九日

東京

沼津

大藏省

吉田少輔

アス、カユル、ベシ、キウジノ、イシママニ、メイ
ソシノ、カギ、ユウラ、ヲケ、

東京ヨリ之来信

大藏省

大藏省

本月二十六日附之貴信相達之展閱致之候去
 廿五日海路無恙御着取被成造幣寮御滞
 在之趣致承知候尔後愈御佳勝并賀此事
 二候貴亦中第一二條御申越之趣承知第
 三条キンドル云は是又致承知候本^不日御面晤
 之刻精々御尽力有之同人儀疑念令氷
 解和談ヲ遂候様御注意祈候且将来
 自他共談寮事務ニ関スル事件^候有之節
 ハ其都度ハ御報告可申旨致承知此後
 右件ニ関係之儀有之候ハ時々御通知可

大藏省

大藏省

大藏省
致候依テ御回答右申進候也

明治七年七月廿日

大隈卿

吉田少輔殿

明治七年八月八日 於東京大藏省

去ル二十八日付第二公信到未致點候即左ニ
回酬及ヒ候

七月二十一日付第八百八十四号キンドル書面昨年
中發行貨幣ノ布告文寫同人所持函之候ニ付
英文新聞紙ニ掲載マシ公告文寫相廻具候様
申立儀委細御辨解之趣致頌兼即國債
寮中造幣事務課ニ申付記録寮書類之
内探索為致候條見當リ次第騰寫之上造幣
頭宛ニテ相回シ候本入一付此方可取斗候

第二号

大藏省

右書中之追書二件ハ當方ニ於テモ同說ニテ
公告文中ハ掲載致シ候積ニ有之候
新銀量目公差其外共其地ニ於テ取調差越
トノ趣具承致候

貨面表裏之和字并一休ノ模様共甚不佳ニ
付和字之儀ハ本省御傭木村凝之一下命ノ
儀承諾即同人ハ申付候間出来次第造幣
寮一向可差出候條於其地適宜寫真ヲ以テ
相縮メ其他羅馬文字模様共可然極印ノ壞
刺シ試鑄之上見本更ニ差越候様致度存

候

新貿易銀之儀ハ全ク墨銀同一令通用候見込故敢
テ比較ヲ旧銀同ニ取ラス全ク孤立ノモノニテ支出統テ
場所及時相場ヲ以彼我共ニ取引致候方萬
全ノ儀立、御申越之趣固ヨリ御同意之事ニ
テ候条此段可然御了解可有之候
右件、不取敢及回酬候也

大隈卿

吉田少輔殿

追テ本月一日附キンドル書面到来ニ付兼テ

御来示之趣ニ準據ニ別紙書出之通及
田谷候条即披封、俟差出候間英譯之
儀ハ可然御取斗同人ハ付與可有之候也

明治七年八月八日 於東京大藏省

本月一日附第三公信落手捧読致之候今般遠
藤權頭轉任ニ付石丸權頭着取之上察務引継
候迄之處目下支障モ不尠候向遠藤大丞ニ
於テ従前之通り察務取扱候様別紙寫之
通御達ニ相成候趣致美知候右ハ暫時ノ間
事故卿殿限リ聞届置心院へ上申ニモ及間
敷ト相考へ候因テ此段御田谷旁申進候也

郷大藏大丞

言田大藏少輔殿

第三号

追テ別紙ニ落手致シ候也

明治七年八月八日 於東京大藏省

第四公信落手披封貴示中綴、遂熟閱候
キンドル儀今般足下御出張ニ付テハ亟根過
慮ヨリシテ兎角不平ヲ鳴シ就中當春中敷
度往復之末四月二十五日付之書翰中彼レエ
對シ輕蔑云々ニ付今般之御出張モ彼ヨリ猶
親シク御面晤ヲ不好ト由就テハ旧察頭及
出仕之面ヨリ公務上之都合ヨリ申出モ有
之故旁ホタ御面晤不相成候歟承知然ルニ
去ル六日付電報有之當日朝キンドルニ御面

第四号

大藏省

會相成候趣彼レ暴權ヲ變シテ平和ヲ求ムル云
レ致兼知候同人儀ニ就テハ精ク御注意一段御
説諭有之度所祈候且又去月廿二日^付ギンドル
ヘ遣候公書ニ向ヒ同人ヨリ回答差越候右一箇ス
ルニ御申越ト同様尤瑣末ノ言語ヲ列テ不可
言迂拙ノ辭柄ヲ作り有之候事就テハ同人
ヨリ差越候一書ハ當人ヘ可差戻候様云レ
御申越ノ旨モ有之候得共右様取斗候モ
却テ不都合ト被存候付先御申越之通斷
然手強ク回答申入候事ニ有之候此段御

領兼有之度候將又先般以來彼是紛紜ヲ
来シ候儀ヨリシテ現今新旧察頭引継之事
務及其他諒察ノ關係スル儀萬端未示ノ
通足下ヘ御委任致候奈臨機之良法妙策
ヲ充分ニ御施行可有之以テ諒察之旧弊ヲ洗
除シ始末ヲ完備セシメ將來平易ニシテ察務
相運ヒ候様御目途之如ク嚴シク御整理有
之度候事

一第二ヶ條ギンドル御雇継云レノ儀モ逐一致兼
知候旧察頭及次官ゴニ於テハ到底此期ヲ業

トシテ放逐之方可然ト見込ノ旨其他察中外
人ガノ見込モ御申越相成熟考スルニ足下諛察
ニ就テ實際右様之確證多ク御聞込モ有之
上ハ敢テ當地於テ云ハ評議ニモ却テ右等ト
齟齬候テハ将来又ハ緊務ニ関係スル紛立ヲ
醸成スルモ難斗依テ前件同様同人進退モ
御委任致置候間厚ク御熟慮之上英断
ノ御處分有之様致シ度候事
右之件、御回答申進候尤モ去ル七日右様大
意即時電信ヲ以御報知致シ置候事ニ候此

後モ右ノ儀ニ付テハ不取敢同様通信致シ候
様承知致候也

大隈 卿

吉田 少輔 殿

追テ将来諛察維持方法ニ就テハ云ハ御申
越之趣モ是又致承知候右ハ尤御同意之
儀旧察頭初夫、意見申出モ有之節足
下ヨリ御申越之儀モ可有之段致承知候
也

本月六日付第五公信落手致展候キンドル之情
 况及右ニ付テノ御見込先信委細御申越有之領
 兼則大第四号ヲ以及御答候事公信モ同人事
 云ノ御申越之旨是又致承知候一体是迄度ノ
 ノ御書通且キンドルヨリ拙者へ被差越候書面
 ニテモ彼レノ無暴モウバウ言語ニ尽シ難ク然ルニ又ノ遠
 藤及ヒ石丸ガへ相送り候書状之言辞其陳述
 スル處一々不都合之次第旁此上ハ彼ヲメ使役
 シ此造幣寮事務完全無覺束断然放免ト天
 思致候依テ貴下ニ於テモ其御見込ニテ臨機處

大藏省

大藏省

分ハ勿論到意此キンドルヨ魚キモノト御見据将来
造幣事務永遠辨理致シ候様實際篤ト御
閱歴之要ヲ以テ御取捨致候儀充分御擔當
有之度此段具モ御委任致シ候亟縷言此上
キンドルヨ此方ニ如何様難事申越候共決テ取
合不致候間御降神可被成候尚又今般石丸
權頭赴任ニ付此後之目的ハ詳細當人ニ御垂示
有之度右御報旁申進候也

明治七年八月十三日

大隈卿

吉田少輔殿

追テ去ル十日電信ヲ以石丸遠藤ニ「キンドルヨ」送リ
シ甲号子号之書簡原文早ニ御送り有之度
段申進候儀則子号之分ハ當地ニ於テ入手候間
甲号ノ分丈早ニ御差出シ有之度此段申添候
也

明治七年七月二十七日

大坂

東京

吉田

熊谷

ボウエキ、キン、ミヤワセ、ノギ、ミヤウチ、ミタ

大蔵省

大蔵省

大痛岩

明治七年八月四日

大坂

東京

吉田少輔

熊谷大丞

ミツカノ、テニシシ、セウチ、キンドルエ、ヲクリシ、デンシ
シ、ウツシ、サノトヨリ、

ケウノ、ダイリナル、ヨシダヨリ、シガツ、ニジウ、ゴニチ、ツケテ
フリリシ、テガミノ、ウチニ、イロシ、アル、ヲモムキニテ、トリ
カエシ、ノゾムト、キコエドモ、ソレワ、ケツシテ、トリカエス、
コト、デキズ、モウロン、ゾヲヘイリヨウ、ジムニツイテハ、コノ

大蔵省

タビ、ヨシダエ、一カセ、ソケウエ、デバリ、シゴトユエ、ヨシダト、
ジキダン、セガレバ、ナニゴトモ、マトメガタミ、ソレユエ、シチカツ、
ニジウニチ、ヅケ、ワレヨリノ、テガミデ、クイシ、トヨリナリ、
ヨリ、ヨシダト、ケウギシテ、クレヨ、ヲ、クボ、ナウムケウ、
ゼンケンベシリ、ダイシント、シラ、セイコクニ、ユクコト、ハイ
メイ、シタ、ヨシハラ、ヅイコウスル、イトウ、サニギ、ナウム
ケウ、カワリスル、

明治七年七月二十七日

大坂

東京

吉田

熊谷

ニジウ、ゴニチノ、デンシニ、ウケトル、セウチ、イシ
マル、コンニチ、ゴントウ、ハイメイシタ、ユンドウ、ジレ
イハ、コンニチ、ウケトリ、アツカリテアル、ワタシカタ、
キゲン、シラシテ、クレ、

明治七年八月七日

大坂

吉田少輔

東京

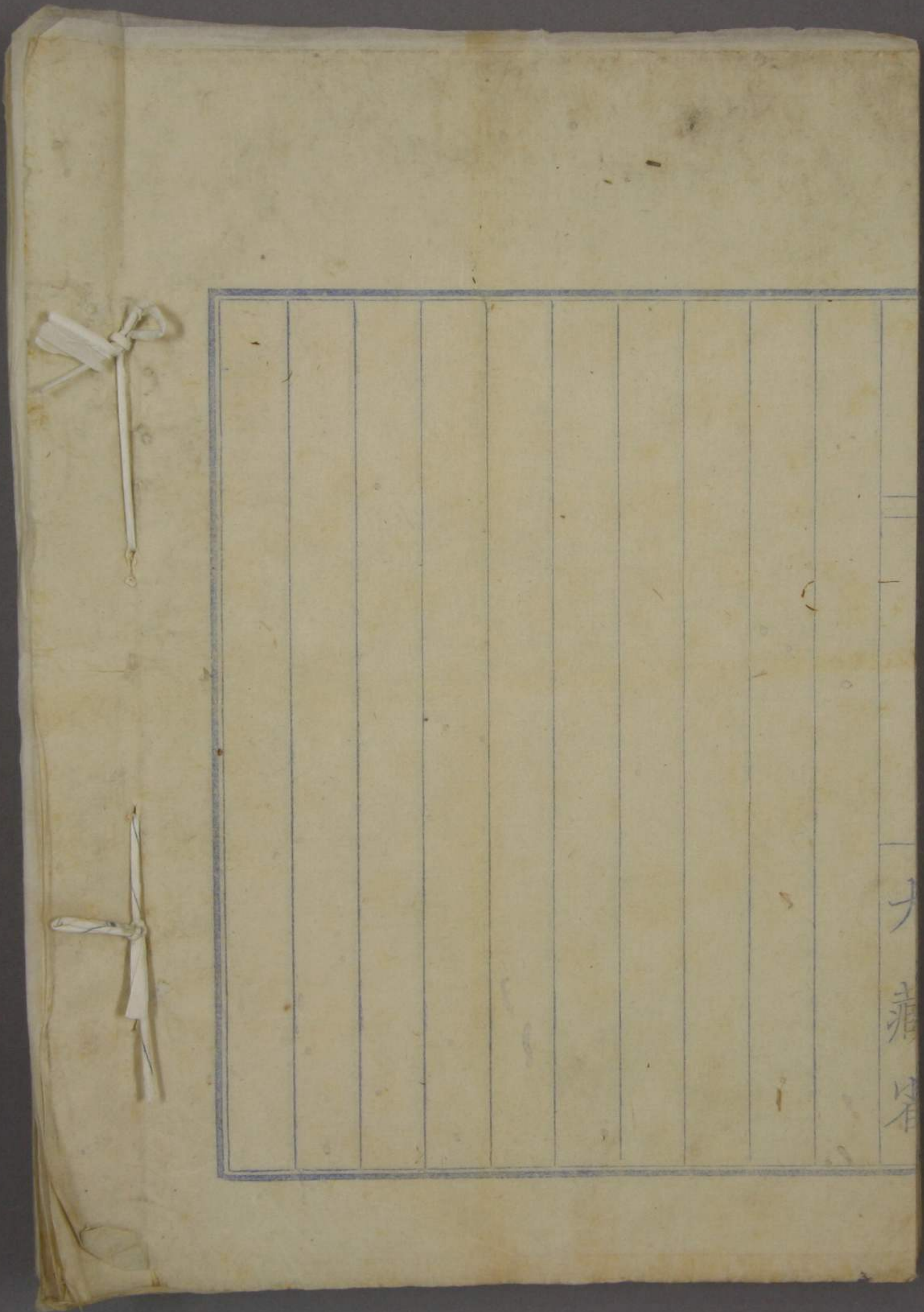
大隈卿

ダイシ、コウミン、ウケトル、イサイ、セウチ、シメ、ミ
コミ、ドヨリ、ケウアン、ジンリヨク、シテクレ、マカシ
マス、イサイ、ユウビン、タクス

大隈卿

大隈卿

陽
平



大
痛
者